

2. 日本語教育部門

日本語研修コース報告（2010年4月～2011年3月）

後藤寛樹

1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999年10月に第1期を開講し、2011年3月には第23期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2010年4月から開講した第22期と同年10月から開講した第23期について報告する。

2 受講者

第22期は、文部科学省によって配置された国費研究留学生2人、学内公募による私費留学生4人が受講・修了した。第23期は、文部科学省から大使館推薦で配置された学生はなく、学内公募による大学推薦の国費研究留学生や私費大学院生・研究生7人が受講・修了した。受講・修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者（第22期・第23期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
22	マルセル マノ	アルバニア	富山大学 チャピ ゲンツィ 教授
	ビクトル コールチュン	ロシア	富山大学 中村 和之 教授
	凌 思 香 (リョウ シコウ)	中国	富山大学 森口 毅彦 教授
	範 小 京 (ハン ショウケイ)	中国	富山大学 松田 健二 教授
	宋 振 宇 (ソウ シンウ)	中国	富山大学 唐 政 教授
	聶 晶 (ジョウ ショウ)	中国	富山大学 磯部 祐子 教授
23	レ ティ ソアン	ベトナム	富山大学 松本 欣三 教授
	ミル ワカス アラム	インド	富山大学 岡田 裕之 教授
	毛 姣 傑 (モウ コウケツ)	中国	富山大学 唐 政 教授
	劉 詩 瑤 (リュウ ショウ)	中国	富山大学 吉村 敏章 教授
	王 昕 (オウ シン)	中国	富山大学 前澤 宏一 教授
	周 天 楽 (シュウ テンラク)	中国	富山大学 唐 政 教授
	袁 璟 (エン ケイ)	中国	富山大学 神川 康子 教授

※上記の学生に加え、どちらの期もそれぞれ1人の私費研究生が受講していたが、いずれも授業の進度についていくことが難しくなり、途中で受講を辞退している。

3 コース担当者

第22期は、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師6人（加藤敬子、中河和子、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当し、第23期は、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師6人（中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当した。どちらの期も後藤寛樹がコースのコーディネートを担当した。

4 コーススケジュール

第22期は、2010年4月8日（木）に開講式、同年9月10日（金）に修了式を、第23期は、2010年10月7日（木）に開講式、2011年3月1日（火）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第22期>

2010年4月6日（火）	文科省配置学生①：諸手続き、オリエンテーション
4月7日（水）	学内公募選考
4月8日（木）	開講式、学内公募受講生：オリエンテーション
4月9日（金）	文科省配置学生②：諸手続き、オリエンテーション
4月12日（月）	授業開始
5月26日（水）	異文化交流パーティー
6月4日（金）	フィールドトリップ（高岡キャンパス）
6月25日（金）	「私の国」発表会
7月24日（土）・25日（日）	ホームステイ、ホームビジット（24日のみ）
8月2日（月）～31日（火）	夏季休業
9月2日（木）	スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
9月10日（金）	修了式

<第23期>

2010年10月5日（火）	学内公募選考
10月7日（木）	開講式、オリエンテーション
10月8日（金）	授業開始
11月12日（金）	フィールドトリップ（高岡市瑞龍寺ほか）
11月17日（水）	異文化交流パーティー
12月17日（金）	「私の国」発表会
12月22日（水）～2011年1月3日（月）	冬季休業
2011年1月29日（土）	ホームビジット
2月16日（水）	スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
3月1日（火）	修了式

5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った（表2、3参照）。初級クラスの「文法」10コマ中8コマと「語彙・表現」「聴解」「文字・漢字」「会話」各1コマの合計12コマ、および、中級クラスの午前中の10コマ（「文法」8コマ、「聴解」「会話」各1コマ）は日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の

習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

どちらの期も、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けて、授業を行った。

5.1 時間割

表2 第22期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (要門)	文法 A (高島)	文法 (要門)	文法 A (高島)	語彙・表現 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	文法 C (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (濱田)	文法 (後藤)	会話 (副島)	聴解 (濱田)	作文 (藤田)	特別指導 (加藤扶・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (加藤敬)	文法 A (中河)	文法 (加藤敬)	文法 A (中河)	読解・作文 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 B (副島)	文法 (高島)	文法 B (副島)	文字・漢字 (加藤扶)	コンピュータ (後藤)	コンピュータ (後藤)	文法 C (副島)
金	文法 (横堀)	文法 B (松岡)	文法 (横堀)	文法 B (松岡)	会話 (後藤)	読解 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

表3 第23期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (要門)	文法 A (高島)	文法 (要門)	文法 A (高島)	聴解 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	文法 C (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (加藤扶)	文法 (後藤)	会話 (副島)	語彙・表現 (藤田)	作文 (加藤扶)	特別指導 (加藤扶・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (永山)	文法 A (中河)	文法 (永山)	文法 A (中河)	読解・作文 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 B (副島)	文法 (高島)	文法 B (副島)	文字・漢字 (加藤扶)	コンピュータ (後藤)	コンピュータ (後藤)	文法 C (副島)
金	文法 (横堀)	文法 B (松岡)	文法 (横堀)	文法 B (松岡)	会話 (後藤)	読解 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

5.2 日本語科目

初級クラスでは、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

中級クラスでは、これまでに身につけた文法や語彙の知識をもとに、中級レベルの文法や語彙を習得し、運用力をつけることを目指して授業を行った。午後の「文法 C」の時間には、文法事項の復習と定着の確認を行った。

また、どちらのクラスでも、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト]

<初級クラス>

- 文 法 『みんなの日本語初級』 I, II (スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
- 聴 解 『みんなの日本語 聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク)
『わくわく文法リスニング 99』(凡人社)
『絵とタスクで学ぶにほんご』(凡人社)
『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)
『楽しく聞こう』(凡人社)
- 語彙・表現 『みんなの日本語初級』 I, II (スリーエーネットワーク)
- 読解・作文 『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』(スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)
『楽しく読もう』(凡人社)
- 文字・漢字 『ストーリーで覚える漢字 300』(くろしお出版)
- 会 話 『クラス活動集 101』『クラス活動集 131』(スリーエーネットワーク)
『楽しく話そう』(凡人社)
『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)

<中級クラス>

- 文 法 A 『J.Bridge』(凡人社)
- 文 法 B 『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク)
- 文 法 C 『みんなの日本語初級』 II (スリーエーネットワーク)(第 22 期)
『初級日本語文法総まとめポイント 20』(スリーエーネットワーク)(第 23 期)
『中級日本語文法要点整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)(第 23 期)
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
- 聴 解 『新・毎日の聞き取り 50 日 上・下』(凡人社)
- 会 話 『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク)
- 文字・漢字 『留学生のための漢字の教科書 中級 700』(国書刊行会)(第 22 期)
『Intermediate Kanji Book』 Vol.1 (凡人社)(第 22 期)
『Intermediate Kanji Book』 Vol.2 (凡人社)(第 23 期)
- 読 解 『日本語の表現技術 読解と作文 中級』(古今書院)
- 作 文 『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)(第 22 期)
『留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)(第 23 期)

5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いために難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

〔使用テキスト〕『日本語学習者のためのアカデミックインフォメーションリテラシー』

(独自開発テキスト) (第22期)

『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』

(スリーエーネットワーク) (第23期)

5.5 口頭発表プロジェクト

5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。本コースでは、留学生が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。これまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について紹介するための原稿を作成し、スピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2参照)。さらに、学生は発表原稿を元にしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第22期、第23期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3参照)。

5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第22期は2010年9月2日(木)に、第23期は2011年2月16日(水)に、それぞれ午後1時半より開催した。第22期は22人、第23期は16人の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員、富山大学の留学生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、日本語教育部門の4人の教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

6 成績評価

初級クラスは、メインテキスト（『みんなの日本語』）に基づく定期試験を実施し、また、「語彙・表現」「文字・漢字」のクラスでは期末試験を実施した。中級クラスは、メインテキスト（『J.Bridge』『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』）に基づく定期試験を実施し、また、「聴解」「文字・漢字」のクラスではそれぞれ期末試験を実施した。口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるために、コース終了時にコースエバリュエーションのアンケートを行っている。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットについて、調査を行った。それぞれの期のコース評価の結果を表4、表5に示す。なお、回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。また、自由意見は日本語または英語で記入させ、英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

表4 第22期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
(コース全体) コースは役に立ったか： 5段階評点 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる2人、忙しい1人、 ちょうどいい3人 日本語は上達したか： した5人、普通1人	<ul style="list-style-type: none">・難しい日本語をたくさん勉強した。・会話の練習がたくさんあった方がいい。・学生みんなの活動を多めにしてほしい。
(日本語の授業) 授業はどうだったか： 5段階評点 教科書はどうだったか： 5段階評点 ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点 教師の教え方はどうだったか： 5段階評点	<ul style="list-style-type: none">・ありがとうございます。・とてもよいと思う。
(テスト) テストはどうだったか： 5段階評点 テストは多かったか： 多すぎる1人、多い1人、 ちょうどよい4人	<ul style="list-style-type: none">・難しかった。・会話テストを多くしてください。・テストはちょっと多いが、大丈夫だと思う。

表5 第23期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体) コースは役に立ったか： 5段階評点 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる2人, 忙しい1人, ちょうどいい4人 日本語は上達したか： した4人, 普通3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • もっと発音練習をしたほうがいい。 • もっとたくさんの授業を受けたいし, もっとたくさんの活動に参加したい。
<p>(日本語の授業) 授業はどうだったか： 5段階評点 教科書はどうだったか： 5段階評点 ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点 教師の教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コースは楽しかったし, 多くのことを学べた。いつも優しくいろいろな面で助けてくれた先生方に感謝したい。 • 専門の日本語を入れたほうがいい。 • 会話の練習をもっとしたほうがいい。
<p>(テスト) テストはどうだったか： 5段階評点 テストは多かったか： 多い3人, ちょうどよい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にとって, テストはとても難しかった。でも先生方のおかげですべてのテストを終えることができた。 • 2週間に1回ぐらいがいい。
<p>(コンピュータ授業) 授業は役に立ったか： 5段階評点 テキストはどうだったか： 5段階評点 教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にとってとても役に立つクラスだった。今, 日本語環境のコンピュータが使えるようになった。 • 簡単な練習が多すぎる。
<p>(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： たいへん2人, ふつう5人 プロジェクトは役に立ったか： 5段階評点 発表会は役に立ったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A先生が協力してくれたおかげで発表をすることができた。A先生にとっても感謝している。 • 時間の拘束が長すぎる。
<p>(見学) 参加者6人 見学は楽しかったか： はい6人 見学場所は適当だったか： はい6人 見学の時期は適当だったか： はい6人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多くの留学生と一緒に旅行できた。 • たくさんお寺を見たり, たくさん友だちができた。
<p>(ホームステイ・ホームビジット) 参加者4人 ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい4人 時期は適当だったか： はい4人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本人の家庭を知ることができた。 • 日本人と話して, 日本語を練習できた。

<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならぬと思うか：</p> <p>思う 6 人</p> <p>思わない 1 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本語の勉強に役立った。 • 日本人学生は楽しい人ばかりで、いっしょにたくさんのことを学んだ。 • 楽しかった。2 人 • たくさん知識を得ることができた。 • 留学生に対して偏見を持たないでほしい。 • 楽しかったです。でも時間が少なかった。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本の文化と他の国の文化は異なる点がたくさんある。だから私たちは日本の規範や習慣、日本人の考え方を学ばなければならない。 • 必要だから。 • 日本で生活して、日本人と交流するのに必要。 • 日本にはたくさん規範があるし、日本人の習慣や考え方は中国人と同じではない。だから勉強しなければならない。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本の文化はむずかしい。人の心も。
---	---

このコースは1日4コマ、75日間の集中コースということもあり、受講者の中には研究活動を同時に進めながら受講している留学生がいるため、どうしてもスケジュールが忙しいととらえられてしまう傾向がある。特に、第23期は既に大学院生として富山大学に入学した学生も受講しており、研究を進めながらの受講が大変であったことは容易に想像できる。とはいえ、第22期、第23期ともに、コースは役に立ったかという問いに対して、5段階評点で平均4.8以上の回答が得られていることから、受講者のコースへの満足度は高かったと言えるだろう。自己の日本語の上達度についての問いにも、多くの学生が「上達した」と答えており、この点からも受講者のコースに対する満足度が高いということがうかがえる。

日本語の授業についての問いでは、ほとんどの項目に対して5段階評点で平均4.7以上の高い評価が得られている。これに対して、テストについての問いでは5段階の評点による評価がやや低く、またテストの回数についても、「多すぎる」「多い」という回答が第22期、第23期ともに見られた。学生が必要以上の負担を感じなくて済むように工夫をしていくことも大事かもしれないが、自由記述でのコメントを見る限りでは、テストの多さや大変さは肯定的にとらえられているのではないだろうか。

コンピュータの授業や口頭発表プロジェクトについても、概ね高い評価を得ている。コンピュータの授業については、第23期の自由記述に「簡単な練習が多すぎる」という記述が見られた。これを書いたのはコンピュータを専門とする学生で、コンピュータの操作自体にはかなり慣れており、そのため授業内で行ったさまざまな練習が簡単に感じられたのであろう。口頭発表プロジェクトについては、第22期の自由記述で「プロジェクトを通して、話すことが上手になった」という、達成感を感じたことを示すコメントが見られた。学生がこのプロジェクトをきっかけに、日本語で話すことに自信を持ったことを表しており、ひいては、その後の力の伸びにつながっていくものであると考えられる。実際、これを書いた学生の指導教員からは、コース修了後に学生の伸びを高く評価するメールが届いている。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても概ね良い評価が得られた。受講した学生たちは、これらの機会を、教室での日本語学習以外に日本の文化や習慣について学んだり、習った日本

語を実際に使ったりできる良い機会だととらえられているようである。

8 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2011年3月に第23期生を送り出し、これまでの修了生は、文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて158人となった。

2010年度には、これまで研修コース単独の授業として開講していた初級クラスの午後の授業科目のうち、新たに3つの科目を日本語課外補講の学生も受講できる科目として開講することになった。そのため科目の内容についても見直しを行った。日本語研修コースの受講者にこれまでと同じ質・内容の授業を提供しつつ、日本語課外補講の受講者が空いている時間に希望する科目を選択して履修できるよう、授業科目ごとに扱う内容を独立させる形で整備した。日本語研修コースと日本語課外補講は2005年度から一部の授業科目の合同授業化を進めてきた。初級クラスについては、2010年度から新たに合同授業となった3つの科目も含めて、合同クラスにすることによってクラス当たりの人数が増え、コミュニケーション重視の練習の幅が広がり、合同化がうまく機能していると言える。一方、中級クラスは2009年度と2010年度とでは授業科目や開講形態に変更はないが、異なる立場の学生が同じ授業に出ることによって生じる問題に依然としてうまく対応できておらず、クラスの運営が難しくなっている。引き続き日本語課外補講のコーディネーターや授業担当者とも連携をとりながら、どのように運営していけば、双方のプログラムの受講者にとって意義のあるプログラムにできるのか考えていかなければならない。

また、第22期、第23期ともに、1人の学生が途中で受講を辞退する結果になった。第22期の場合は、当該学生が開講直後に家庭の事情で一時帰国しなければならなくなり、再来日時には既にコースがかなり進んでいて、他の受講者に追いつけなかったという事情がある。第23期の場合は、体調不良などによる欠席が度重なり、同様にコースの内容についていけなくなった。どちらの学生に対しても、特別指導などでできる限り他の学生に追いつけるような手立てを講じたが、最終的には受講を辞退するに至った。病気や家庭の事情などやむを得ない場合もあるだろうが、できるだけこのような事態にならないよう、学内公募での面接、オリエンテーション、コース開講後の指導の効果的な実施について検討し、対応していきたい。